

地方自治体のウェルビーイング政策の現状と課題

Current Situation and Issue of Well-being Policies in Local Governments

文化政策論／論文

地域キュレーションコース

中井ききょう

Nakai Kikyo

研究目的

近年、「ウェルビーイング(well-being)」という概念が注目されている。ウェルビーイングとは、心身だけでなく社会的な面も含めた多方面で持続的に満たされた状態を表す言葉である。このウェルビーイングが注目されている理由は、「モノ」から「心」の豊かさへ価値観が変化したことや、生き方の多様化、新型コロナウイルス感染症の流行による心身の健康や幸せのあり方を再考する風潮、災害の発生に起因するVUCA（先行き不明）の状況で、人々が拠り所を求めていることが挙げられる。他方で、「幸福のパラドックス」と呼ばれる、ある程度の所得水準に達するとそれ以上所得が増大しても幸福度は高まらないという現象が生じ始めたことも関係がある。

さらに2009（平成21）年にステイグリッツ報告書が公表されたことをきっかけに、ウェルビーイングを政策に取り入れる動きが世界的にトレンドになった。日本でも国の主導でウェルビーイング向上に関する政策の取り組みを行っている。地方自治体においてもこの動きは強まっており、自治体ごとにウェルビーイングを測定するための指標を独自に作成するなどして、ウェルビーイング政策の導入に努めている。これまでGDPなどで評価されてきた豊かさは、新たにウェルビーイングや幸福度などの指標をつくり、その向上を目指すようになったのである。

本研究では、ウェルビーイング政策の先進地域として注目される富山県、岩手県、荒川区、越前市を対象とし、各自治体でのウェルビーイング政策の取り組みを調査する。調査では、ウェルビーイングを政策に取り入れる意義を明らかにし、各自治体間の調査結果の比較を行うことで、より効果的な活用方法を検討し提言することを目的とする。

研究方法

先行研究やホームページなどを含む既存の資料から、ウェルビーイング政策の世界の変遷と日本の変遷をまとめる。また、富山県、岩手県、荒川区、越前市のホームページから、各自治体のウェルビーイング政策の概要についてまとめる。

文献・資料調査によって明らかになった点や不明点をもとに、富山県のウェルビーイング担当者にヒアリングを行った。また、富山県の調査結果を踏まえ、岩手県、荒川区、越前市のウェルビーイング・政策担当者にメール文章でのアンケートを行った。主に、経緯、理念、手法、効果、課題などを調査し、比較を行う。

ウェルビーイング指標の全体像

ウェルビーイング指標の体系

10指標…総合2指標、分野別7指標、つながり指標

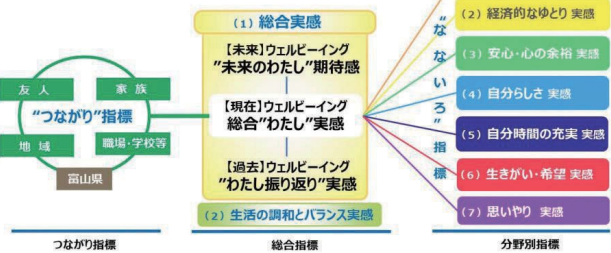


図1 富山県のウェルビーイング指標の全体像【富山県HPより】

ウェルビーイング指標の発信

ウェルビーイング指標の全体像

…状態を花に見立てて視覚的に表現

※それぞれの形の大きさが数値の大きさを表現

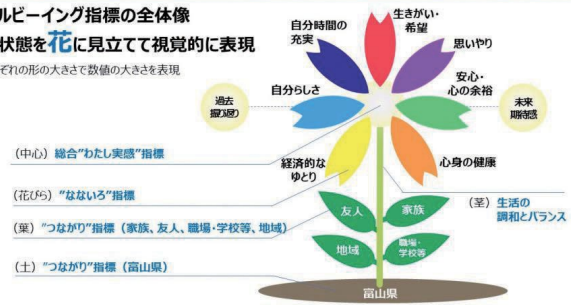


図2 富山県のウェルビーイング指標の発信【富山県HPより】

結論と提言

今回の調査では、ウェルビーイング政策の3つの意義と1つの課題が明らかになった。まず1つ目の意義は、ウェルビーイングを政策に取り入れることによって自治体職員の仕事の目的の可視化に役立つということである。2つ目の意義は、ウェルビーイング政策によって潜在的な課題の発見につながるということである。3つ目の意義は、ウェルビーイング政策は部局間の横連携を促進するということである。一方で課題は、ウェルビーイング政策のためのデータ収集の困難さである。効率的な収集方法の確立が必要であることがわかった。

最後に、この結果を踏まえ、ウェルビーイングという概念を自治体住民に周知するためには、視覚的にデザイン性のあり住民が気軽にアクセスできるウェルビーイングの指標を作成することや、政策を進めていく際に部局間の横連携が行いやすいように事前に横断的な組織を設置しておくこと、自治体の規模やウェルビーイング政策への取り組み年数に応じてウェルビーイング政策への職員の向き合い方を変えることを提言した。